

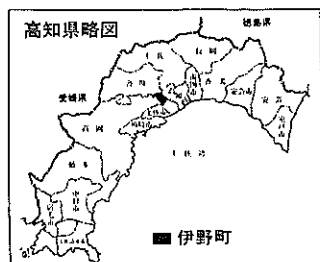
災害の記録

伊野町の概要

伊野町は、高知県のほぼ中央に位置し、県都高知市の西側に隣接する。昭和29年3月、町村合併促進法によって、隣接の宇治村・八田村・川内村と合併、同年10月神谷村と、翌昭和30年1月三瀬村を吸収合併し、新しい伊野町が発足して今日に至っている。

一級河川仁淀川が町の中を貫流、その豊富な水量と清流の恵みを受けて製紙産業が盛んであり、成山地区は、土佐和紙発祥の地で、古くから「紙の伊野町」として広く知られている。

市街地周辺部は、高知市のベッドタウンとして宅地化が進み人口は増加傾向にあるが、一方で町の北西部の中山間地域では過疎化が進んでいる。



位置 北緯 33度 3分 3秒
 東経 133度 2分 5秒
 面積 99.86平方キロメートル
 東西 30キロメートル
 南北 15キロメートル
 標高 平地 14.3メートル
 最高 932メートル

地区別人口及び世帯数

地区名	世帯数		人口					
			男		女		計	
	S50	H12	S50	H12	S50	H12	S50	H12
伊野	3,014	2,747	4,707	3,430	5,209	3,924	9,916	7,354
宇治	1,338	枝川 2,404 池ノ内 156	2,277	枝川 3,299 池ノ内 231	2,406	枝川 3,598 池ノ内 242	4,683	枝川 6,897 池ノ内 473
八田	270	281	458	394	531	453	989	847
川内	707	721	1,234	1,048	1,318	1,068	2,552	2,116
神谷	646	神谷 541 中追 60	1,180	神谷 721 中追 75	1,158	神谷 786 中追 72	2,338	神谷 1,507 中追 147
三瀬	278	254	484	317	523	385	1,007	702
天王	—	1,333	—	2,277	—	2,379	—	4656
合計	6,253	8,557	10,340	11,792	11,145	12,907	21,485	24,699

気象の概況

(台風5号関係)

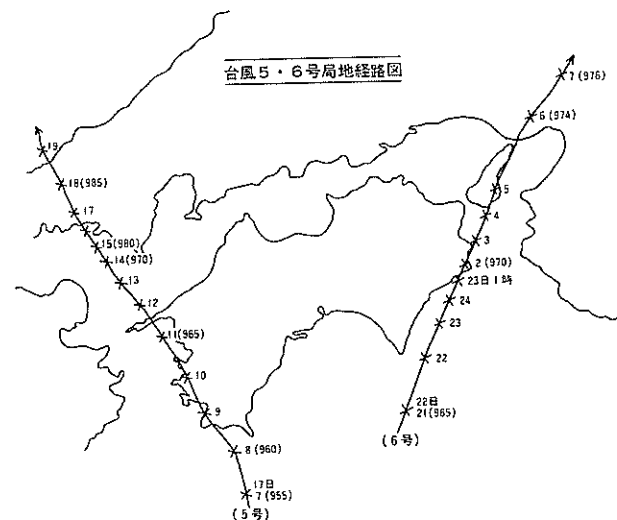
昭和50年8月11日、グアム島西方約400kmの海上で発生した熱帯低気圧は、急速に勢力を強め、12日午後3時には、996mbの台風5号となった。

台風5号は、速度を早めながら北上を続け、硫黄島の西方約400kmの海上では、中心気圧920mb、最大風速50m/sと、強い勢力を持った大型の台風が発達した。

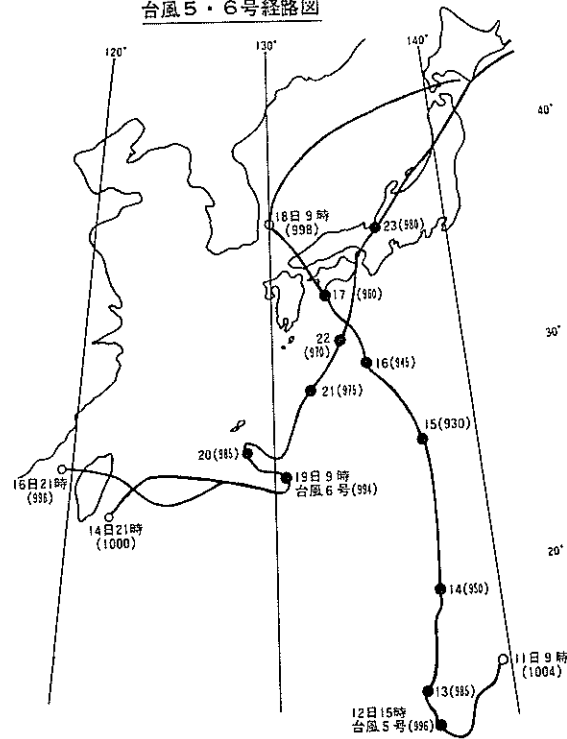
台風は、その後は進路を北西に変え、速度を落としながら、15～16日にかけて、ゆっくりと高知県に接近した。

この年最初の台風の接近に、伊野町では16日正午災害対策本部を設置、台風の襲来に備えて万全を期していた。しかし、雨はまだわずかに降る程度で、台風の直撃はまぬがれるのではとの期待もあった。

期待は見事に裏切られた。翌17日未明から降り始めた強い雨は、午前5～6時には時間雨量45mmにもものぼり、午前8時50分、台風は高知県西端の宿毛市付近に上陸した。上陸直前の台風5号は、中心気圧960mb、最大風速40m/s、15m/s以上の暴風雨圏は、東側450km、西側250kmで、中型で並みの台風に衰えていた。伊野町ではその頃、早くも町東部にあたる枝川地域の一部が浸水を始めていた。



台風5・6号経路図



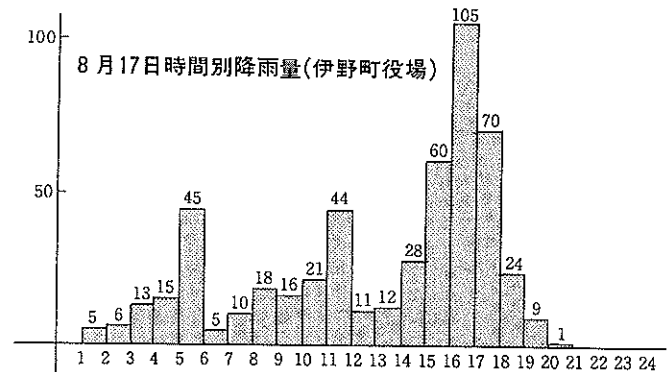
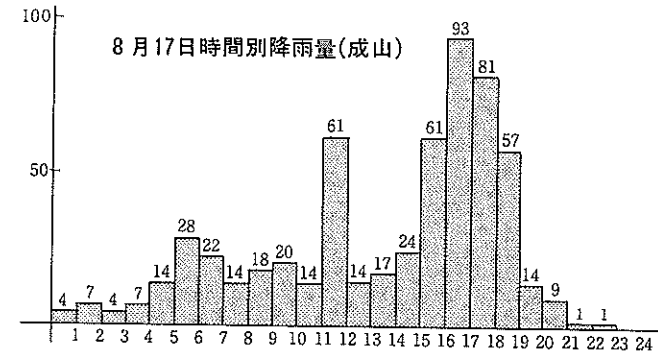
台風は次第に衰えながら四国西岸をかすめ、正午には伊予灘に入り、16時30分には山口県徳山市の西方に再上陸した。伊野町では、10時～12時頃にかけて強かった雨も一時ややおさまり、台風の終結を思わせた。

しかし、台風最前線で活躍する室戸測候所のレーダーは、伊野町上空を南に細長く伸びた「ウナギ型エコー」と呼ばれる、強い雨雲をキャッチしており、一旦おさまりかけた雨は、14時頃には再び強い雨となった。雷を伴った雨雲こそ、高知県中部の仁淀川水系に、想像を絶する未曾有の集中豪雨をもたらした元凶であった。

伊野町では、16時～17時の1時間に105mmと驚異的な降雨量を記録、これによって町の市街地部の大部分が水没、各地で山や崖が崩壊したが、中でも町西北部の山間地区の被害はすさまじく、崩壊した土砂は容赦なく人命を、家屋を呑み込み、土石流となって谷を一気にかけ下り、下流の集落を一瞬の内に押し

流し、莫大な土砂は人家を埋没させ、廃墟と化してしまった。

台風は、19時には日本海に去り、伊野町の雨もようやくこの頃には小降りとなった。



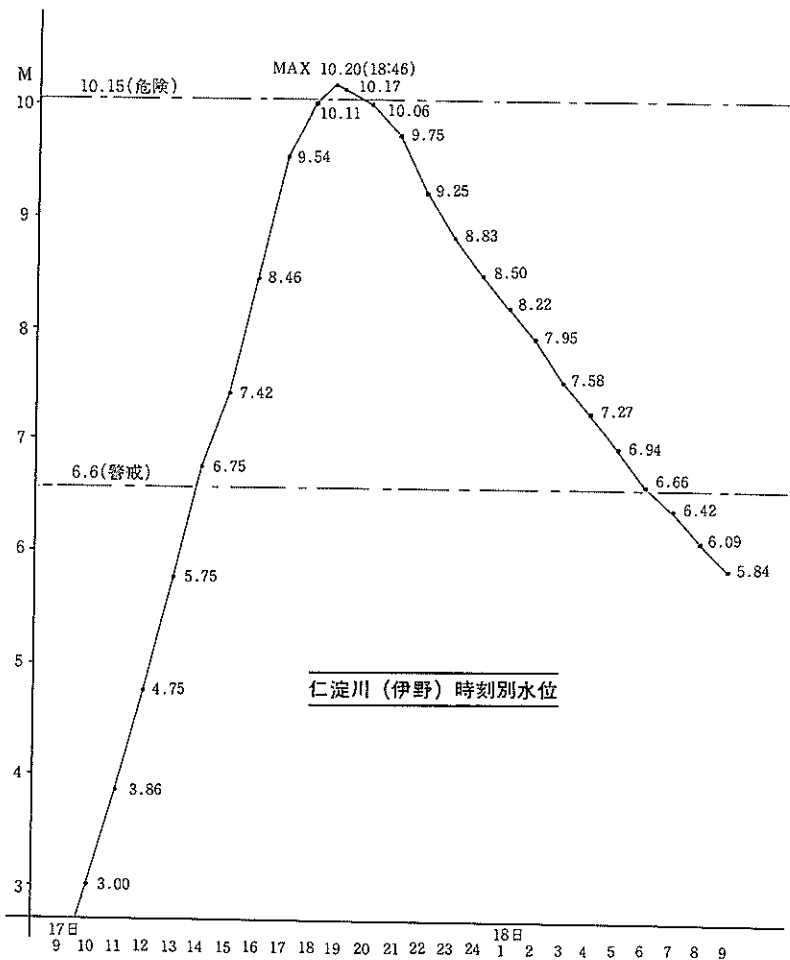
(台風6号関係)

昭和50年8月14日21時、台湾の南で発生した熱帯低気圧と、16日21時、台湾海峡に発生した熱帯低気圧が、台湾の東海上で合併、19日9時に台風6号(994mb)となった。その後20日から21日にかけて、東西に大きく蛇行、夏型の台風としての特徴を示したが、以後は順調に北東及び北北東に進み、足摺岬の南方約400kmに達した21日21時には、中心気圧970mb、最大風速35m/s、25m/s以上の暴風圏は東側200km、西側90km、15m/s以上の強風圏は東側650km、西側250kmと、大型で並みの台風に発達した。その後、23日0時30分ごろ、徳島県蒲生田崎をかすめ、淡路島方面に向かった。

伊野町でも21日から台風の影響によって断続的な強い雨が降り、台風5号に

よる被災地では、再び緊張、22日には暴風雨、洪水警報も発令され、強い雨が降り続き、枝川地区では再び浸水し町内各地区の被災地では、住民が避難するなど、追い討ち台風6号に脅かされた。

しかしながら、幸いにして台風の直撃をまぬがれたため、床上浸水、崩壊現場の再崩壊、新たなガケ崩れ、上流よりの土砂の流出による人家の埋没などの被害は受けたが、人的被害のなかったのは不幸中の幸いであった。



仁淀川 (伊野) 時刻別水位表

日 時	水 位	日 時	水 位
17日 9:00時	2.40M	17日 21:00時	9.75M
10:00	3.00	22:00	9.25
11:00	3.86	23:00	8.83
12:00	4.75	24:00	8.50
13:00	5.75	18日 1:00	8.22
14:00	6.75	2:00	7.95
15:00	7.42	3:00	7.58
16:00	8.46	4:00	7.27
17:00	9.54	5:00	6.94
18:00	10.11	6:00	6.66
18:46	10.20	7:00	6.42
19:00	10.17	8:00	6.09
20:00	10.06	9:00	5.84

備考 警戒水位 6.60 危険水位 10.15

県内各地の雨量

場 所	日雨量(17日)		時 間 最 大	日雨量(21日)		日雨量(22日)	
	mm	mm		mm	mm	mm	mm
伊野(役場)	518	105	16~17時				
成 山	586	93	16~17	115	160		
佐 川	623	108	12~13	76	165		
高 知	295	34	5~6	69	122		
上 八 川	793	133	15~16				
鏡	415	90	17~18	141	67		
柿 の 又	903	119	17~18	168	98		
池 川	715	95	13~14				
土 佐 市	523	117	16~17				

災害発生経過

(5号関係)

8月15日

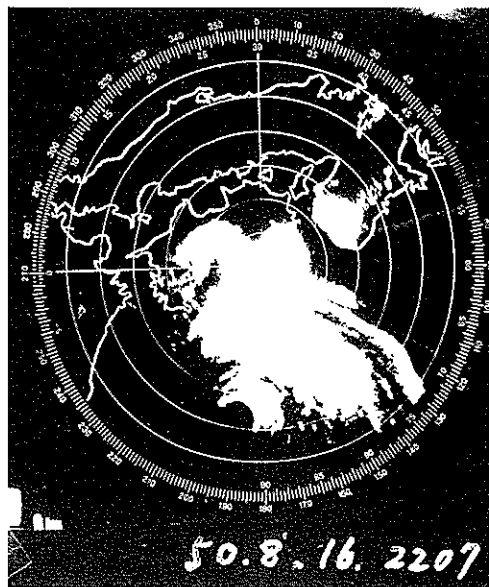
- 9時10分 波浪注意報発令される。
- 16時40分 強風注意報、波浪注意報発令される。
- 22時30分 暴風雨警報、波浪警報発令される。

8月16日

- 12時00分 伊野町災害対策本部を設置する。
- 23時50分 暴風雨警報、洪水警報、波浪警報、高潮警報発令される。

8月17日

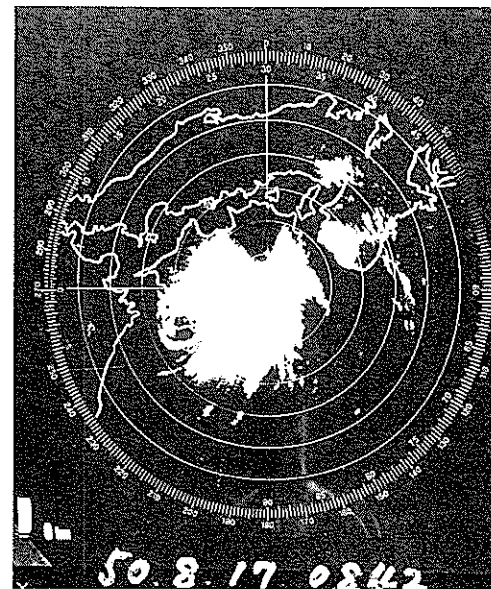
- 6時00分 水防3号発令される。
- 6時20分 伊野町役場各課長、総務課、建設課員を召集する。
- 7時50分 宇治川排水ポンプ運転を開始する。
- 8時00分 高知県災害対策本部より台風5号に関する指令受信する。「県



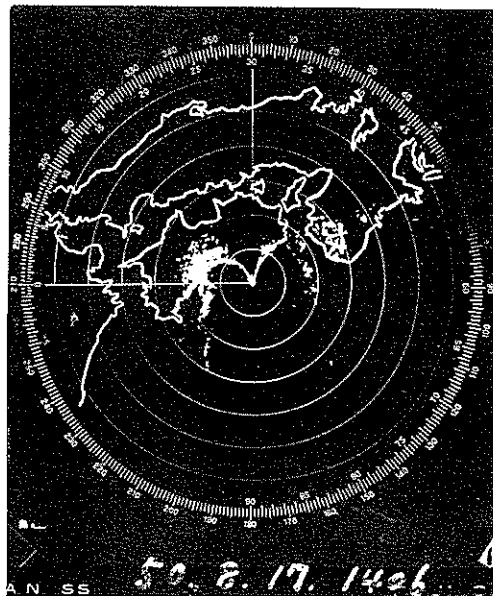
下全域が暴風雨圏に入るの
で、警戒を厳重にし、人的被
害をなさぬよう万全を期せ]

- 8時05分 宇治川排水ポンプ水位低下のため停止する。
- 8時50分 台風5号宿毛市付近に上陸する。
- 8時55分 枝川地区で浸水始まる。(高知県伊野土木事務所より通報)
- 9時00分 宇治川排水ポンプ運転再開する。

- 10時00分 消防団長、副団長を召集する。
- 10時50分 八田、川内分団召集、仁淀川堤防警戒にあたる。
- 11時30分 奥田川樋門閉鎖、排水ポンプ運転を開始する。
- 11時50分 宇治川樋門を閉鎖する。
- 12時20分 日本紙業高知工場に対し排水停止を要請する。
- 13時00分 日本紙業高知工場排水停止を完了する。
水防4号発令される。
相生川排水ポンプ運転を開始する。
国道33号線が浸水しそうだとの通報がある。(建設省より)
- 13時15分 南の谷川樋門閉鎖、大内排水ポンプ運転を開始する。
- 13時41分 四国電力筏津ダムより、放水4000t/sの連絡を受ける。
- 14時00分 勝賀瀬各地区に、三瀬分団より避難を勧告する。
中追土居の谷で、山崩れにより住家が全壊し人的被害が出る。
仁淀川警戒水位(6.6m)を突破する。
- 15時00分頃 勝賀瀬川が氾濫する。
- 15時10分 大雨警報、洪水警報、強風注意報、波浪注意報、雷雨注意報発令される。
- 15時30分 町内全消防分団召集完了する。
柳瀬病院が浸水する。
中追小塩で住家が流失する。(～16時頃)
- 15時40分 鹿敷中村で山崩れにより住家が全壊する。
楠瀬で山崩れにより住家が全壊し人的被害が出る。



- 15時50分 神谷割石で山崩れにより住家が全壊し人的被害が出る。
- 16時00分 伊野町市街地が浸水し始める。
大内地区で住家浸水が始まる。
大内南の谷で山崩れにより住家が全壊する。
加田奥谷川が氾濫し住家が流失する。
神谷梅ヶ佐古で山崩れにより住家が全壊。
小野前田及び西谷で土石流のため住家が全壊、流失する。(～16時30分)
申追去山で大規模な山崩れが発生する。
勝賀瀬長原比で住家が土石流によって大量に流失し、人的被害が出る。(～16時30分)
- 16時30分 台風5号山口県へ再上陸する。
- 16時50分 勝賀瀬込谷で山崩れにより住家が全壊し、人的被害が出る。
- 17時00分 神谷保木で山崩れにより住家が全壊し、人的被害が出る。
成山境谷で山崩れにより住家が全壊し、人的被害が出る。
- 17時05分 伊野町内が停電となる。
- 17時10分 鹿敷湯口で山崩れにより住家が全壊する。
- 17時25分 仁淀消防署指令室が浸水、無線が使用不能となる。
- 17時30分 町役場の電話が発信不能となる。
八田ポンプ場受水槽破損の調整
- 17時40分 伊野町に災害救助法が適用される。
- 18時00分 加茂山崩壊のおそれにより、内野、加茂、西地地区に対し避難命令を発



- 令する。
- 18時20分頃 仁淀川の水位が危険水位を突破する。
- 18時30分 仁淀川堤防決壊のおそれにより、伊野地区全域に避難命令を発令する。
- 18時46分 仁淀川水位が10m20で最高水位となる。
- 19時15分 高知県災害対策本部に対し自衛隊派遣を要請する。
- 19時30分 八田堰下流50m 付近で仁淀川堤防裏法が崩壊する。
- 21時30分 伊野町市街地減水始める。
- 23時00分 神谷奈呂で山崩れにより住家が全壊し人的被害が出る。
- 8月18日
- 0時00分 洪水警報、波浪注意報発令される。
- 1時55分 宇治川排水ポンプ故障のため停止する。
- 2時00分 枝川地区減水始める。
- 5時00分 洪水警報、波浪注意報解除される。
- 6時43分 宇治川排水ポンプ運転を再開する。
- 8時00分 仁淀川堤防決壊のおそれにより発令されていた、伊野地区全域に対する避難命令を解除する。
- 10時10分 相生川排水ポンプ運転停止。
- 10時22分 宇治川排水ポンプ運転停止。
- 13時49分 宇治川排水ポンプ運転開始。
- 13時58分 宇治川排水ポンプ運転停止。

(台風6号関係)

8月21日

- 6時30分 波浪注意報発令される。
台風6号接近のため、ラジオ・テレビ等により、住民に警戒を呼びかける。
- 9時40分 枝川西浦で圃地内の道路が浸水する。
宇治川排水ポンプ場に職員を配置する。
- 10時30分 神谷保木地区35戸、70名が神谷小に避難する。
- 11時10分 大雨注意報、波浪注意報発令される。
- 14時00分 高知県災害対策本部より台風6号に関する指令を受ける。
「台風6号接近に伴い大雨の恐れあり、全市町村は防災体制を万全にせよ。台風5号被災地は、2次災害の防止に厳重な態勢をとり、防災資材の確保、住民の避難誘導等事前対策に万全の措置をとれ」
- 17時10分 波浪注意報、大雨注意報、強風注意報発令される。

8月22日

- 1時30分 暴風雨警報、波浪警報、洪水警報発令される。
- 2時27分 宇治川排水ポンプ運転開始する。
- 2時50分 枝川西浦地区浸水し始める。
- 3時15分 宇治川排水ポンプ、水位低下により運転停止する。
- 6時45分 宇治川排水ポンプ運転開始する。
- 7時15分 建設省より、八田堤防の補強要請があり、消防団八田分団長に指示する。
- 7時45分 神谷保木、奈呂地区に裏山の崩壊のおそれにより避難命令を発令する。
枝川の浸水のおそれのある地域に対し避難命令を発令する。
伊野町全域の5号台風による浸水地域に避難命令を発令する。
- 8時00分 早稲川、谷川ぞい、加茂山下の警戒を自衛隊に対し要請する。
- 10時20分 鹿敷地区で山地崩壊の危険により約200人が、国道194号線に避難する。
- 10時40分 筏津ダム放水 毎秒1000トン
勝賀瀬長原比地区約100名の救出を自衛隊に要請する。
- 11時08分 宇治川排水ポンプ運転を停止する。
- 11時25分 筏津ダム放水 毎秒1090トン

13時07分

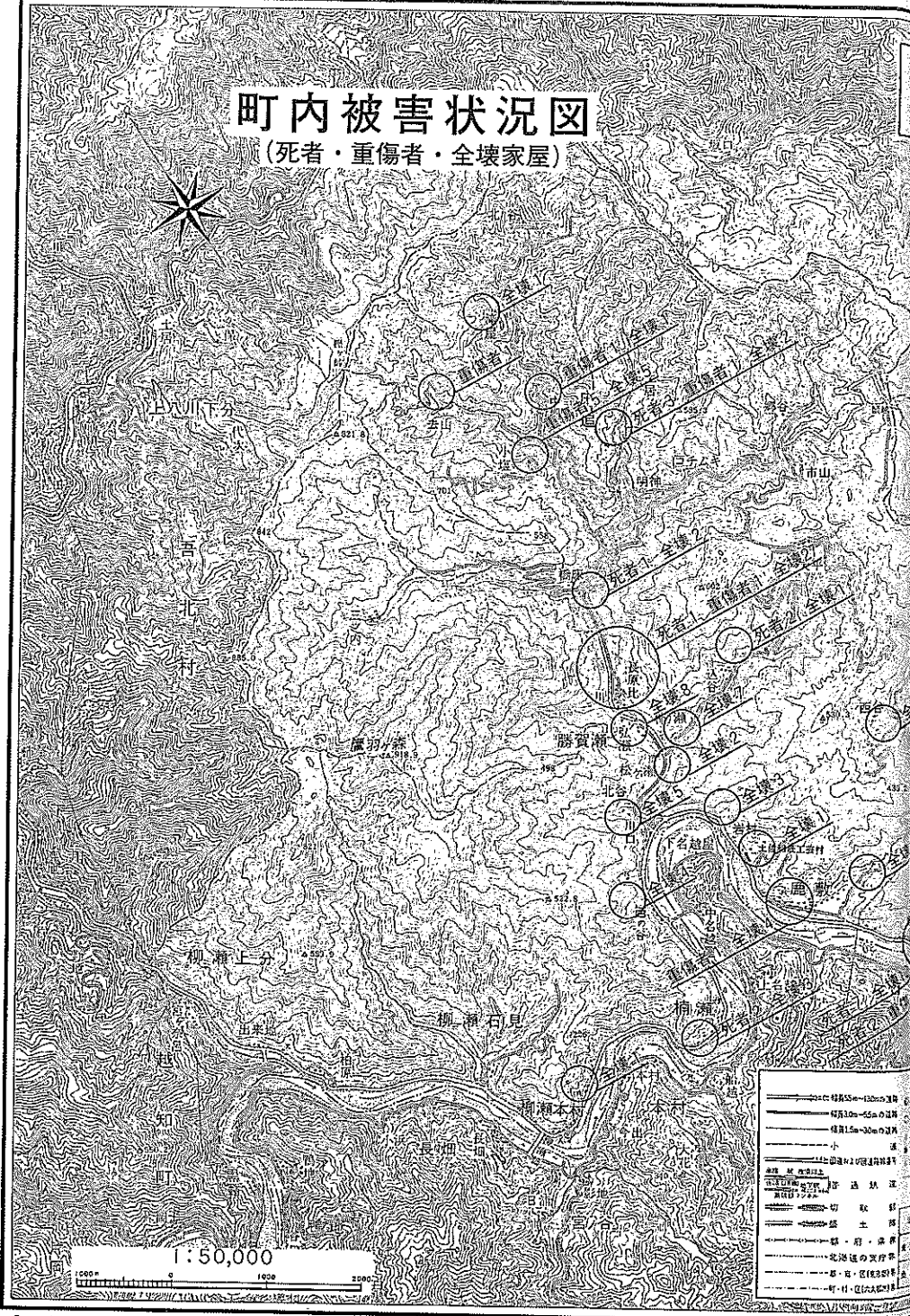
宇治川排水ポンプ運転を開始する。

8月23日

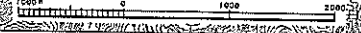
- 2時20分 強風注意報、波浪注意報、洪水注意報発令される。
- 5時00分 宇治川排水ポンプ運転を停止する。
- 5時50分 全町避難命令を解除する。
- 9時00分 波浪注意報発令される。
- 16時00分 波浪注意報解除される。

町内被害状況図

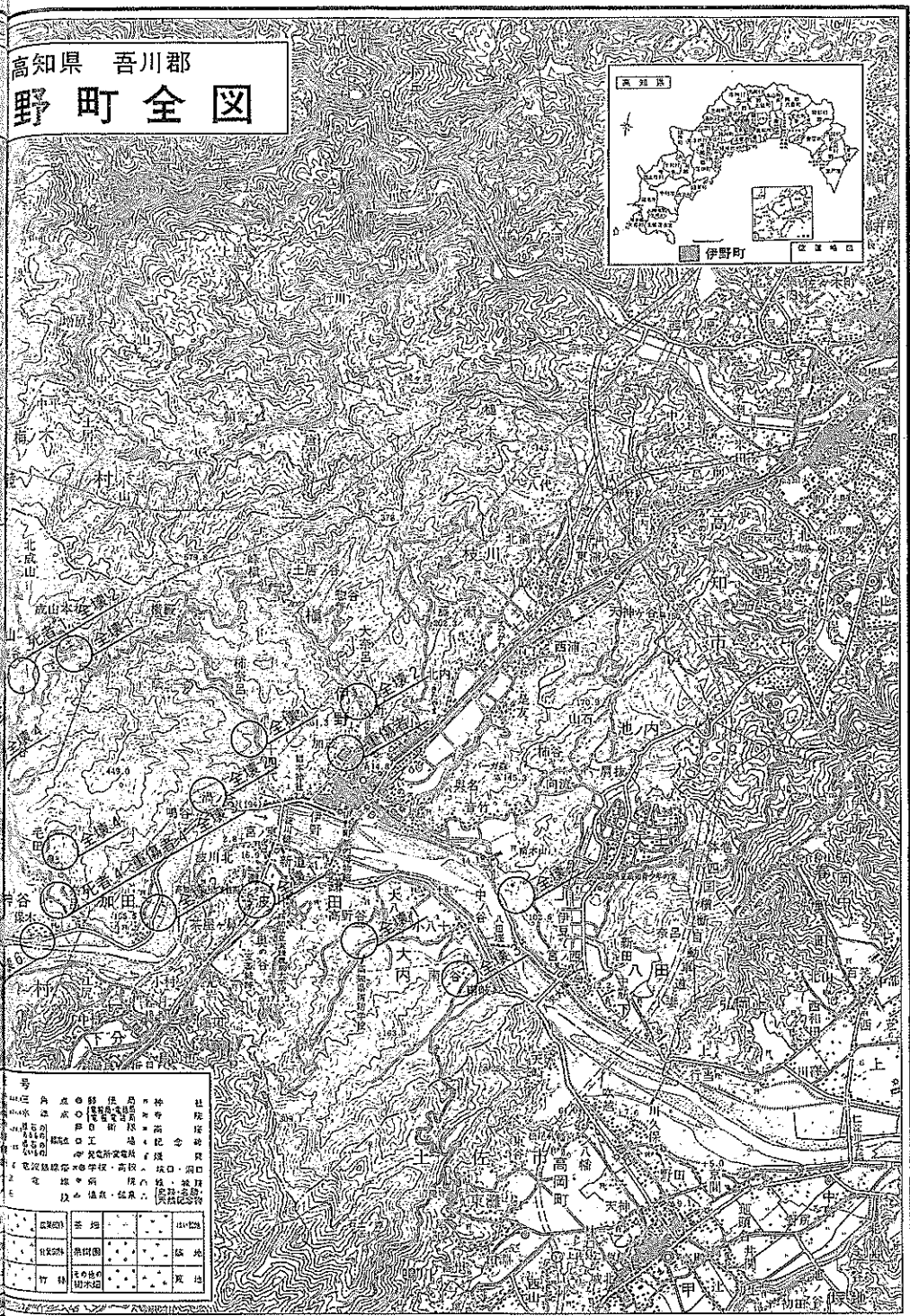
(死者・重傷者・全壊家屋)



1:50,000



高知県 吾川郡 野町全図



●	死者1名	○	重傷者1名	○	全壊家屋1棟
○	死者2名	○	重傷者2名	○	全壊家屋2棟
○	死者3名	○	重傷者3名	○	全壊家屋3棟
○	死者4名	○	重傷者4名	○	全壊家屋4棟
○	死者5名	○	重傷者5名	○	全壊家屋5棟
○	死者6名	○	重傷者6名	○	全壊家屋6棟
○	死者7名	○	重傷者7名	○	全壊家屋7棟
○	死者8名	○	重傷者8名	○	全壊家屋8棟
○	死者9名	○	重傷者9名	○	全壊家屋9棟
○	死者10名	○	重傷者10名	○	全壊家屋10棟

「この地図は建設省国土地理院長の承認を得て、阿院発行の5万分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平7四復、第 188 号)」

高知県吾川郡野町役場

被害の状況

1. 人的被害

死者 23人
重傷者 16人
軽傷者 35人

2. 建物被害

救助法報告数

区分	世帯数	人員
全壊	128	642
半壊	100	379
一部破損	156	577
床上浸水	2,083	6,752
床下浸水	2,450	8,510
非住家		220棟

3. 公共土木施設被害

区分	件数	金額
河川	74	1,462,010千円
道路	272	568,726
橋梁	15	66,695
合計	361	2,097,431

4. 農業用施設等被害

区分	件数	金額
道路	174	142,925千円
水路	154	711,020
橋梁	6	11,687
頭首工	34	80,906
揚水機	4	10,720
農地保全	14	103,349
小計	387	1,062,119
農地	242	612,254
林道	41	156,230
林地崩壊	20	40,010
合計	690	1,870,613

5. 文教施設被害

区分	件数	金額
幼稚園	1	2,384千円
小中学校	10	32,740
公民館	1	1,280
合計	12	36,404

9. 県管理施設等の被害

区分	件数	金額
河川	356	8,323,410千円
道路	360	1,394,497
橋梁	15	192,529
砂防	37	631,184

6. その他の公共施設被害

区分	件数	金額
病院(組合立)	1	300千円
公営住宅	18	2,523
上水道	1	1,601
簡易水道	2	1,627
飲料水供給施設	1	1,386
合計	23	7,139

10. その他の被害

区分	金額
農産被害	390,768千円
林産被害	161,000
畜産被害	4,375
商工被害	1,782,542
合計	2,338,685

7. その他の土木被害

区分	件数	金額
堆積土砂排除	47	131,046千円
がけ崩れ	159	357,872
合計	206	488,918

11. 災害廃棄物処理

区分	数量	金額
し尿処理	848.1t	3,756千円
塵芥処理	-	10,243

8. 小災害等

区分	件数	金額
小災害	159	12,182千円
単独災害	48	2,645
合計	207	14,826

救援・捜索活動

【8月17日】

- 10:50 巡視より帰署した消防団長は、奥田川、南の谷川両樋門の開閉を受け持つ八田分団及び川内分団の分団長に対し団員を召集し警戒に当たるよう指示を出し、他4分団にも団員を召集して水防警戒に当たられたしとの電話連絡を行う。

- 13:15 川内分団は、増水がきわめて大きくなったため、南の谷川の樋門を閉鎖し、ポンプを作動させた。

一方、南の谷で発生した民家への土砂崩れ現場へ全分団員を移動させ住民の避難誘導及び崖崩れか所に積土俵工法を行い、被害軽減に全力をあげた。

(~22時頃まで)

- 15:00 降雨が異常に激しくなり、町内河川警戒中の消防署員より無線にて「仁淀川の水位が警戒水位に達し、増水中との報告が入る」
 - 西浦地区崩壊現場へ団員12名を出勤させ第2次崩壊を防止するため、積土俵工法を行う。

- 15:30 伊野町消防団全分団は、「団員を召集し、水防警戒に入る」

伊野分団—松井分団長外2名の分団長含め30名待機。

宇治分団—13時頃、団員召集し警戒体制に入る。

八田分団—11時頃、団員を召集。

川内分団—11時頃、団員を召集。

神谷分団

加田部—13時30分団員15名を召集。

保木部—13時30分団員15名を召集し避難を勧告すると共にその誘導に当たる。

鹿敷部—13時30分団員14名を召集。

三瀬分団

勝賀瀬部—12時30分団員を召集し警戒に当たる。

柳瀬・出来地部—12時30分団員を召集し警戒に当たる。

- 浸水のため危険な状態にある柳瀬病院へ団員6名を出勤させ、重病患者数名を搬送し、2・3階の安全な場所へ避難させた。

- 仁淀川氾濫のため避難中の割石地区民6名が、通称割石山

上方300mからの第1次崩壊のために生き埋めになり団員6名が出動したが、第2、第3次崩壊のため作業続行が不可能となる。

- 15:40 谷地区で老人4名が浸水のため避難できず取り残されたので、団員10名と、署員2名が出動する一方地区民約20名を楢本神社まで避難誘導した。

鹿敷中村地区に豪音と共に崖崩れが発生し団員10名を出動させ、崩壊した家屋の下敷きになっている男性を救出した。(16時05分)

楠瀬地区を警戒中の団員ら5名は、地区民からの知らせで、山本勉方裏山約300m上方からの土石流により生き埋めとなった4人の救出を地区民の協力も得て行い、19時までに女性2名を救出し、柳瀬病院に搬送した。残る2名は翌18日応援にかけつけた団員3名と合流し捜索を続け18日10時頃、遺体となって収容した。

- 16:00 梅ヶ佐古多樽山250m上方からの崩壊により3戸が埋没し、女性1人が生き埋めとなったので、団員ら4名が現場へ出動したが、現場は第2次災害の恐れがあり、救出作業ができず、付近住民に避難するよう指示し警戒に当たった。

- 16:20 加田寺ヶ谷地区で崖崩れがあり、1戸が半壊し団員7名に出動を命じ、危険区域の住民に避難するよう勧告しその誘導に当たさせた。

- 16:50 町対策本部より、旧伊野町全域に避難命令が発令されたため、分団長以下13名、署員4名は、数名毎に分散し、避難命令の伝達及び避難指定場所への避難誘導を行った。

- 17:00 神谷荒瀬にて西川芳於方裏山にて崖崩れがあり、2戸埋没し1戸半壊、3名生き埋めとなった旨の通報を受けて、班長以下4名が川舟を使用して現場に急行し、直ちに救出作業を実施し、17時30分頃、土砂と材木の下敷きになっていた女性1人を救出したが柳瀬病院への搬送不可能なため、応急手当てをした後、地区民に安全な場所への搬送を依頼した。そしてなおも救出作業を続けたが、降雨と夜間ということで一時作業を中断し、小雨となった合間を見て、一時間後地区民の協力も得て再度捜索を始め、21時40分頃、1人の遺体も収容、残る1名も既に死亡していると思われるため、22時捜索をいったん打ち切った。

- 17:10 警戒中の団員より井口地区危険との連絡により、待機中の団員ら7名は出動し、同地区民に緊急避難するよう命じその誘導を行った。避難完了の直後、大崩壊があり、7戸が流失埋没し1戸半壊した。その数分の差により地区民25名の人命が救われた。
- 17:30 急激な増水によりポンプ場（八田）が浸水して使用不能となり作業を中止した。
- 17:40 災害救助法適用される。
- 18:00 道路が冠水等のため通行不能となり、枝川地区孤立。
- 19:30 八田ポンプ場に本流逆流はじめる。
- 20:30 機動隊は、伊野警察署管内に対して、機動隊1個分隊が舟艇による（2隻）支援活動を始め、旧伊野町内及び枝川地区において、舟艇による浸水被害者の救出、救護活動を行う一方終日警戒警備に当たった。このほか、県本部編成部隊1個小隊を追加派遣した。
- 21:00 八田地区民の避難誘導が終わり団員は朝まで待機。
- 21:30 町内市街地減水始まる。
- 23:00 奈呂尾崎方上方で崩壊があり3戸が押し流され8名の生き埋め者があるとの連絡が入り、荒瀬での救出作業を終え待機していた団員ら6名を再び現場に出動させた。そして、約2時間後地区民の協力もあり4名を救出し、2名を遺体で収容したが18日2時過ぎ、一旦作業を中止した。負傷者4名は付近在住の三宮看護婦の応急手当てを受け、安全な民家に一時安静にして保護した。
- 23:30 日高へ向かう応援自衛隊が、唹内にて道路冠水のため通行不能になっているとの連絡があり、団員6名が出動し、伊野分団と協力しその搬送に従事。
- 23:50 善通寺第15普通科連隊、先発隊が役場に到着。

【8月18日】

- 3:00 宇治分団は、団員が分散して、食糧・飲料水を調達し、増水のため孤立した各避難者に給配する作業を行った。
夜明けを待って神谷分団保木部は割石・梅ヶ佐古・荒瀬・奈呂の災害現場において捜索を開始する。
- 6:00 各分団とも地区内の情報収集、警戒に当たる。
 - 八田分団—伊野八田線、八田春野線の復旧作業。
 - 川内分団—2次災害のおそれのある所へ、土のうを築く等

行った。

- 神谷（加田）—民家への土砂の流入があった寺ヶ谷・奥谷地区の土砂取除き作業を実施。
- 神谷（鹿敷）—危険か所の応急措置を行う一方、地区内の負傷者の搬送及び勝賀瀬地区の負傷者を葦谷から中継し病院まで搬送。
- 勝賀瀬部—8月17日仁淀川・勝賀瀬川の増水が大きいため、14時頃より各地区民に対し避難するよう勧告したが、急激な増水のため弘瀬まで行けない状態であった。
勝賀瀬地区にあっては、数か所に崖崩れが発生し強い雨のため救助活動さえ不可能で18日においても、川口の大崩壊のため奥の状況も不明でとりあえず、団員を分散し、河川の橋げたにある障害物を取り除き、負傷者の搬送作業を実施した。
- 9:00 三瀬分団出来地部においては、楠瀬災害現場で夜を徹し捜索を続け、18日早朝応援の団員、地区民と合流し捜索活動を行った。その結果、10時頃残る2名を遺体で収容し、他団員は、柳瀬病院の救援のため活動する。（80名余りの食糧調達と病室の清掃作業）
- 9:30 到着した自衛隊約520名（第15普通科連隊）と神谷分団が協力、割石・梅ヶ佐古・荒瀬の行方不明者捜索に全力をあげ、15時梅ヶ佐古で1遺体を収容した。
又、奈呂においても11時頃地区民、消防団員らの捜索により2遺体を収容。
- 17:00 波川地区で道路に亀裂が入っているとの住民からの知らせで、団員15名を移動させ、通行制限する等応急処置を行う。
第15普通科連隊は、伊野町における行方不明者の捜索及び人命救助を実施。長原比付近の住民106名の大部分を「ブランコ」により収容し、農協まで搬送を行う。また、特に自衛隊においては17日夜から21日までの4日間を重点施期として、断続的な雨の中、常に第2次災害に備えつつ9遺体を収容した。

【8月19日】

- 第15普通科連隊 行方不明者の捜索
 - 8月17日以降自衛隊等の救援活動、遺体捜索その他の活動を迅速かつスムーズに進行させるため、パトカー等による先導等で災害復旧の円滑化を推進した。

- 12:00 愛媛県警管区機動隊（35人）徳島県警機動隊（20人）の支援を得て、神谷・成山等における被災者の救援、遺体収容、行方不明者の捜索等の諸活動に従事した。
（8月22日徳島、愛媛両県に復帰）
- 高知県立農業大学の臨時ヘリポートから、伊野署管内の被害状況視察。
- 第2教育団は、県本部とも協同し山間部の具体的な被害状況及びヘリポート適地の偵察を実施し、山間地における被害状況の解明と物資空輸基盤の確保をはかった。

【8月20日】

- 国道33号線の東進車両の通行規制や194号線への一般車両の乗り入れ禁止、加えて、信号機手動操作による交通の円滑化を伊野署員始め応援の警察官らの手によって行った。

【8月22日】

- 自衛隊善通寺第15普通科連隊（520名）は、
弘瀬橋～中追中屋
伊野町～楨
神谷～成山の各道路の応急啓開。

【8月26日】

- 第15普通科連隊は、横藪・明神間の道路啓開を340人で行う。
第13補給隊は、宿営地区の給水、入浴支援。

伊野町における自衛隊の活動状況

派遣延人員 (人員)	遺体収容 (遺体)	患者空輸 (名)	部外者空輸 (名)	物資空輸 (t)	道路啓開長 (m)
5,238	9	7	30	22	26,070

道路土量 (m ³)	堤防補修 (袋)	橋梁補修 (箇所)	防疫 (戸)	用水路啓開 (m・m)	倒壊家屋除去 (戸)
1,600	13,100	5	4,550	200	9

部外者給水 (t)	部外者入浴 (名)	避難者救出 (名)	障害物除去 (t)
5	478	110	2,158